

平成24年度 第1回 平塚市図書館協議会 会議記録

開催日時 平成24年8月28日（火） 14時00分～15時30分

開催場所 平塚市中央図書館 会議室

出席者 会長 村山 真由美

副会長 小林 美和子

委員 磯部 博之、諸山 朝子、中野 威、高橋 麗奈

事務局 和田中央図書館長、池田北図書館長、桐山西図書館長

富田南図書館長、飯田管理担当長、菊坂奉仕担当長、加藤主管、富田主事

傍聴人 なし

会議の概要

- 1 開会あいさつ 和田中央図書館長
- 2 会長あいさつ 村山図書館協議会長
- 3 前回の協議会での質問への回答

事務局 前回の協議会で質問のあった大和市立図書館と生涯学習センターとの連携事業は特になし。生涯学習センターの独自事業においても図書館の本の提供を個別対応で実施。生涯学習センターのホール利用もない。以上になります。

4 議題

- (1) テーマ「平塚ならではの市民にとって利用しやすい図書館」における「レファレンス」について

事務局 平塚市図書館におけるレファレンスの概要について

中央図書館3階の参考室に専門スタッフ2名。現在は専任の司書が1名。事務職1名で行っている。事務職員については定期的にレファレンスについての研修を実施している。土日は1名体制になるが、他のフロアにいる司書職員がフォローしている。

内容は他自治体の図書館と同様に利用者の求めに応じて資料・情報の提供を行っている。

現状として、紙資料で回答することが原則であるが、速報性・情報の多様性のあるインターネットを利用した回答をすることもある。この場合には、情報の信憑性に配慮するようにしている。

回答後は、レファレンス記録票を作成し、職員間で事例を共有している。

県内の他市町村の地域資料も収集しているが、現状として平塚市に関する資料をできるだけもれが無いよう収集するようにしている。調べものには、現在、キーボードで操作する市民情報端末を2台設置している。

課題として、「メールでの質問受付」が挙げられる。利用者が気軽に利用できるのもまずは受付対象を絞って対応することや、資料の提供方法は来館していただくか郵送となるが、どのように行うかについても検討している。

中央館のみならず地区館が窓口として機能し、質問受付をしていること、所在地である平塚の情報を揃え、提供できる体制を備えていることも平塚市の特徴といえる。

利用者からの質問に回答する受動的なサービスのみならず図書館から発信する能動的なサービスをいかに提供するかが課題である。

平塚市特有の資料の所蔵についても情報発信していきたい。受けたレファレンスの回答の公表、郷土資料のホームページにおける提供などが考えられるがプライバシーの保護や著作権の処理をいかに図るかが問題。

また、利用者自身でどのように情報検索し、必要な情報を入手するか、についての紹介も行い、レファレンス業務の認知度を高める必要がある。

(質疑応答)

委員 こども室や貸出室での質問への対応はどのようにしているか。

事務局 各室で質問受付をしている。利用者のニーズとして探している情報を手元に持って調べるために、資料の貸出を希望することが多い、また、参考室にある情報は概論のものが多く、詳しい各論を扱う資料はこども室や貸出室にあることが多い。各室に司書を配置し、フロア間で連携し対応している。

委員 平塚について調べるときどのような苦労があるか。

事務局 最も大きな課題は人事異動により地域の情報に精通した職員の育成。普段からアンテナを広く保ち情報を収集しておくとともに、寄贈による資料収集や博物館、市史編さん室と連携をしながら回答している。

委員 質問の公開はどのようにするか。また利用者にはどこまで情報公開するのか。

事務局 レファレンス結果の公開についての具体策は、パソコンシステム上での公開の方法を含め現時点では決まっていない。Q&A形式で編集し公開することも検討したい。利用者への情報公開は、公開の可否を質問者に確認し、プライバシーの観点から不可であれば図書館内での情報共有のみとする。

委員 夏休み以外の時期に子供たちが調べ学習できる体制はどのようになっているか。

事務局 調べる内容が「図書館で調べる」という課題なのか通常のクラスで出た課題なのかが分からないことがある。同様の質問が2、3回寄せられたときに子供にその課題がどういった課題なのか確認し、図書の貸出の扱いなどを含め、図書館で対応できる準備をするようにしている。

委員 外国籍、発達障がいの方へはどのようにレファレンスサービスをしているか。

事務局 外国籍の方へのサービスは読み物のみ。調べものには対応が難しい。

発達障がいの方の利用については把握していない。学校を通じての利用の実績がある。

(2) その他「事業計画及び重点項目について」

事務局が資料に基づいて、平成24年度事業計画及び重点項目を説明した。

(質疑応答)

委員 「来館できない人へのサービス」について これから郵送するCDの送料はどのような扱いにするのか。

事務局 無料で郵送できる内容物を送る予定である。

委員 レファレンスの積極的周知の具体的手段はどのようなものか。

事務局 ホームページでの周知や館内掲示を考えている。具体的手段のアイデアがあれば出していただきたい。

委員 ホームページは一日どれくらい閲覧されているか。ホームページ閲覧をどのよ

うな方がしているかわかるか。

事務局 1日あたり平均2096件 年間約76万回のアクセスがある。

委員 利用者の利用地域、利用端末の種別、ページの閲覧順序等のホームページのアクセス解析をすることでホームページの改善へとつなげるのも一つではないか。

委員 南図書館で3年前からお母さんの図書館員体験として調べ学習体験を実施し、好評。

貸出体験以外にも調べ学習についてのクイズなどを加えると良いのではないか。

座間市図書館では全ての年齢層を対象とした調べ学習コンクールを実施しているので参考にしているかどうか。

委員 生涯学習の一環として図書館を利用し、学びを育てる、ということが大切になってくるのではないか。

委員 インターネットを利用した書店の増加の影響もあり、全国的に書店の数が減少していると聞く。図書館が担う古いものを含め地域資料の収集保存、公開という機能の重要性は今後増すのではないか。

委員長 地域資料収集についての課題はなにか。

事務局 作られた資料の収集や収集した資料に個人情報に掲載されているなど、公開が難しいものもある。

委員 教育委員会で写真などの地域資料を5年で廃棄しているという話を聞いたが、図書館での保管はどのようにしているか。

事務局 本などまとめられた資料は図書館で保管している。写真を含め元となる資料については社会教育課に確認する。

委員 学級文庫を教室に設置する予定はないか。

事務局 団体貸出、学校図書の実用を図るサポートをしているが、教室での文庫開設の予定はない。

事務局 次回12月に向けていかに能動的にサービス行うか、について、今回委員の方から出された意見を踏まえ、事務局で調査を行い、次回の協議会で活発に議論する準備をしたい。

委員長 学校への貸出についての過去の実施状況（中止になった場合はその原因）、団体貸出における需要はどれだけあるか、ホームページの活用のメリットや課題について、県立図書館などのホームページの状況を調査するといったことをしてはどうか。

会長より閉会宣言があった。